

# 『最高の「商い」をデザインする方法』より 第1回 持続可能な街づくり(前編)

《寄稿》 (株)商い創造研究所代表 松本大地

私は湯河原在住の商とは長い深い関係とな お届けしたいと思いま 業プロデューサーでりました。

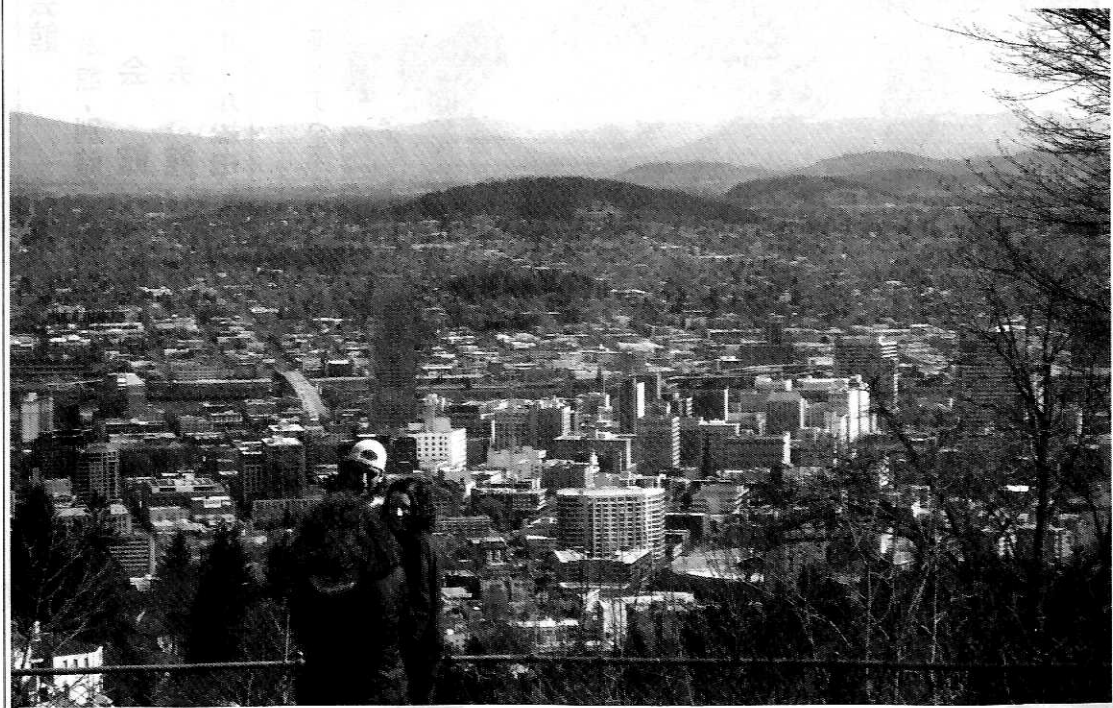
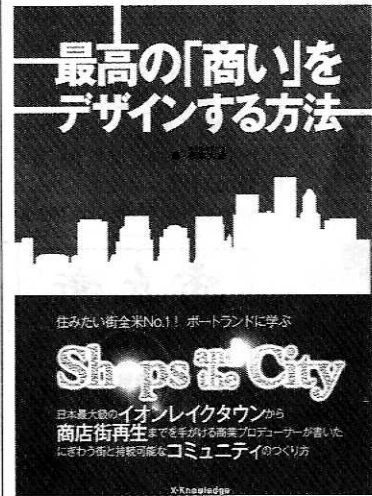
大学卒業後、山一証券にて金融ビジネス、鈴屋で小売ビジネス、丹靑社にて20年間の商業施設プロデューサーや「商い」をデザインする方法」(エクスナレッジ出版)が上梓され、2007年に「人と街と商いの新しいリンケージ」を企業理念に掲げ商い創造研究所を設立しました。

現在、さまざまな商業施設のマーケティングからプランニングを手掛けることも、全国各地の地域再生にも取り組んでいます。小田原では、市の行政戦略アドバイザー、中心市街地商業活性化アドバイザーの他、F店や街の姿を変えつつある潮流と、先端事例の多い「松本大地の商い創造研究所」にて、街づくりやビジネストレンドを解説するトーク&ミュージックの番組を続ける一方、デザインシティのプロジェクトスワークや小田原十郎梅ブランド「持続可能な街づくり」というタイトルで、前にも取り組み、小田原後編の2回にわたって

に拡大していくスプロです。政治のリーダーは空想化して、中場たけとなり、人々は街に寄りつかず秩序の崩壊や犯罪も多発しました。

1970年に入り2度の石油ショックがあった際、さらにクルマ社会へ進むとする情勢に異議を突き付ける市民や政治のリーダーが登場してきました。その時にポータランドがどのような街を目指していったべきかのビジョンが市民とともにつくれた、その根底になったのが「持続可能な社会づくり」でした。

「持続可能な社会づくり」には、ハードインフラとしての交通機関や市民公園などの都市機能整備など形をつくるもの以上に重要なことがあります。それは上から目線での一方的な合意形成ではなく、住民と行政が一体となって取り組むこと



環境と経済が共生し、持続可能な街ができる(ポータランドの風景)



**松本大地**  
(まつもと・だいぢ)  
1952年神奈川県生まれ。山一証券、鈴屋、丹靑社、SCマーケティング研究所所長を経て、2007年7月「人と街と商いの新しいリンケージ」をテーマに(株)商い創造研究所を創立、代表取締役役に就任。全国各地の街づくりプロジェクトに参画、小田原ダイヤ街商店会コンサル、小田原十郎梅ブランドプロデューサー他実績多数。FMおだわらで街づくりトーク番組「松本大地の商い創造研究所」を担当。著書に『最高の「商い」をデザインする方法』(エクスナレッジ出版)がある。